

回 覧



値小だより

島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成29年4月11日 第1号

校長 酒井 元治

輝け166の瞳！

いよいよ、29年度が始まりました。7日の入学式で小値賀小学校・本校12名、大島分校2名の新生を迎え、本校は78名、大島分校は5名のスタートです。始業式、入学式と、子どもたちの様子を見てみると、きらきらと目を輝かせてウキウキ、ワクワクしている様子がひしひしと伝わってきます。新年度第1号の学校だよりは、始業式と入学式で私が話したことをお伝えします。

まず、始業式では学校教育目標について話しました。学校教育目標は昨年度と同じです。

「日本一楽しい学校」

何を基準に「日本一」なのか？子どもたちが「ぼくの学校、私の学校、日本一」と自慢ができる学校にしたい、これが私の望みです。子どもたちが**大人になった未来で誇れる学校**をめざします。

大人になった子どもたちがこの地を離れたとき、「**ぼくの学校、私の学校は、最高の学校だったよ。最高の仲間がいて、こんなおもしろい先生がいて、そして何より最高に温かい地域に包まれた日本一楽しい学校だったよ。**」と未来で誇れる、そして、この子たちの一人でも多くがこの小値賀の未来を担うために帰ってくる、そんな学校をめざします。

ここまでは、昨年度と同じなのですが、加えたことは次の2つ。

1 自分で考え行動すること

小値賀小学校では、昨年度から「動」と「静」のバランスを重視し指導を行っています。朝会や集会のときの静かな移動、待ち方。授業中静かにできるところと、元気よく学び合うところ。今年度はこれに加えて、自分たちで行動できること。今までは担任の先生に先導され体育館や多目的ホールに移動していたところを、時計を見て自分たちで移動するところから身につけて欲しいと思うのです。まずはここから。



2 みんなで学ぶこと

（教え上手、教えられ上手になること）

学校で一番時間費やすのはもちろん授業です。この授業では、国語や算数などの内容を身につけることももちろん必要なのですが、それと同様に他人との関わり方を身につけることが必要になります。社会に出たときに、いくら知識や技能があってもスタンドアローンで他人に教えることなく、また教わることなく仕事をする事ができないからです。集団の中にはいろいろな人がいて、教えやすい人にも教えにくい人にも教えることができる、また、わからないことは自分から教えることができる、このことが学習の中では必要になってきます。さらに、そうすることによって学習ももっと楽しくなってきます。必要なのは子どもたちが何のためにそうしているのかを意識すること、これが「勉強する意味」「学校教育が学校教育たる所以」だと思います。（このことをイラストや吹き出しを提示しながら子どもたちにわかりやすく話したつもりですが、わかったかな…???)



入学式の校長式辞には5・6年生が登場

さて、入学式の私の話には5・6年生を登場させてみました。「入学式の校長式辞って、何だろうな？」と自問自答してみると、まずは新生に「小学校っておもしろそうだな。あんなお兄ちゃん、お姉ちゃんになってみたいな。」という意欲を持たせることかと思いました。そこで、「ぐだぐだと言葉で伝えるより、見せてやれ！」と思いついたのが、式辞中での5・6年生の登場です。

新生に「小学校って、何年間通うか知っていますか？」「そう、6年生までね。どれくらい大きくなるかという、これくらい。」ということで6年生の登場。「こんなことができるんだよ。」とちょっとだけ跳び箱を披露。5年生も続けて、高速の長縄跳びを披露しました。私自身、これまでの入学式で校長式辞に子どもたちが登場するなんて見たこともやったこともなかったのですが、この「百聞は一見にしかず」作戦は子どもたちには、どう映ったのでしょうか？サプライズで登場してくれた5・6年生にも感謝です。時間はちょっと長くなってすみません。



もう一つは、保護者のみなさまに校長として伝えること。私は、式辞等で、もちろん原稿は書くものの、全ての挨拶で「原稿を読まない」と決めています。入学式や卒業式を見られた方は、「この校長、原稿書かずに適当に言いよらんか〜。」と思われたかもしれませんが、一応書いています。ただ、忘れる部分や相手を見て微妙に変える部分があります。ぼけ防止と自分自身の度胸付けです。原稿に書いていた保護者のみなさまに伝える部分は下のようなことです。

新入生のご家族のみなさま、これより6年間お子様をお預かりします。中には、「何もありませんように。何事もなく、この子が学校に行きますように。」と願われている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、何かあるのが学校なんです。その起こった何かのハードルを越すときに成長があるのです。その何かは、「学校に行きたくない。」という言葉かもしれません。「〇〇ちゃん、嫌い。」と



という言葉かもしれません。そんな時には、お子様といっしょに悩みながらも、「この子はこのハードルをどうやって越すんだろう。」と冷静に見つめ、越したときにはいっしょに喜んでやってください。学校は社会性を培う場です。この子たちが広い社会に出ても、他人を認め共存できる力を徐々に付けていく場所です。その練習をしていくのです。何かあった時こそが、成長する場、私は職員にもそのように話しています。

しかし、子どもだけではハードルを越せないとき、ご家族のみなさまが悩まれたときは、担任始め私たちにご相談ください。いっしょに悩み、この子たちがハードルを越えるその瞬間の喜びを分かち合おうじゃないですか。

始業式でも、入学式でも、どうも私が今年強調して伝えているは、「他人を認め、共存していく」ことのようにです。ちょっと落ち着かない子がいて当たり前、計算が遅い子がいて当たり前、ちょっと怒りん坊の子がいて当たり前、ちょっと動作の遅い子がいて当たり前。障害を持った人がいて当たり前、人種や文化の違う人がいて当たり前。その中で、どう他人と関わり、どう自分を表現していくか、それが学校という集団のある意味だと思うのです。「あの子はあんな性格だから、こういう言葉をかけてやろう。」「怒りん坊の〇〇君、こんなときはそっとしといた方がいいよね。前より、怒りん坊じゃなくなったよ。」

一人が成長するのではなく、みんなで成長していく、83名の子どもたちの166瞳が一人残らず、みんなの中で輝きますように！

もっと日本一楽しい学校をつくる先生の紹介

小値賀小学校

1年1組	松田 健之	2年1組	毛利 幸子
3年1組	松本 弥世	4年1組	宮崎 浩二
5年1組	原野 愛子	6年1組	久米 琢
ひまわり	川原 秋子	4~6年理科	中川内 充
養護教諭	永田 早矢	栄養教諭	近藤 けい子
事務主査	渡部 宣昭	用務員	鹿島 智子
スクール ソーシャルワーカー	田口 美津子	心の相談員	中村 裕子
教頭 3~6書写	橋本 淳	校長 <small>草刈り・分校ペンキ塗り主任</small>	酒井 元治

小値賀中・北松西校からの乗り入れ

5・6年 音楽	平井 春那 (小値賀中より)	全学年 外国語	サマンサ コーン (北松西校より)
5・6年 外国語	西牟田あゆみ (小値賀中より)		

大島分校

1年 養護教諭	斉藤 祐三 神川 美代子	2・3年 教頭 (理科・書写・図工)	濱田 順子 柴田 泰徳
------------	-----------------	--------------------------	----------------

桜切るバカ<(_ _)>

今年は、例年になく桜の開花が遅く、入学式にはほぼ満開でした。前々日の予報では、雨だったので、「もったいない。」と思い、校舎裏の桜を3mほど4本切って児童玄関に飾ってしまいました。始業式、入学式を満開の桜で子どもたちを迎えることができました。春の陽気に誘われて桜を切っちゃったのは私です。(桜さん、ごめんなさい。)

